

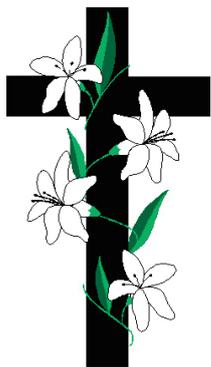
Christ the Saviour (An Anonymous Painting VI c)

11月の予定

七五三、教会委員会	11月10日(日)
信徒の会 例会	11月17日(日)
子どもと共に捧げるミサ	11月24日(日)

死者のために祈る月、11月

主任司祭 小林 陽一



11月は、死者の為に祈る月と呼ばれています。忙しい毎日でありますため、私達は亡くなった恩師、恩人、友人、知人、家族の記憶が薄れてしまうことがあります。亡くなった祖父母、父母、兄弟姉妹、親戚の方々はかなりおられます。これらの方々とは私達の関わりは、どうなっているのでしょうか。私達の側の、亡くなった方々の記憶がどのようなものであれ、亡くなった方々は私達のことを覚えておられます。亡くなった方々は一人ひとり靈魂を持っておられ、その靈魂は存在して、生きておられます。亡くなった方々の靈魂は、私達のことを覚えておられ、亡くなった方それぞれの罪が許されるよう、ミサの中で、祈りの中で祈ってほしいと願っておられます。

それは、亡くなった方が煉獄におられる場合のことです。「煉獄の靈魂のために祈りましょう」と呼びかけられることがありますが、それは、「煉獄の靈魂が、私達の祈りによって、罪が許されるよう祈りましょう」という意味の呼びかけです。

亡くなった方、生前、よくお話をした方、細かいことまでお世話して下さった方、一緒に仕事をした方で亡くなった方々のために、その方の靈魂が少しでも清められるよう、主の祈り、アヴェマリアの祈り、ロザリオの祈りを捧げましょう。

キリスト者はキリストの復活を信じております。キリストが復活したことによって、キリストを信じていた人々も世の終わりに復活して、神の国に入られ、永遠のいのちをいただきます。生前、キリストを信じていた方、その方が死を迎えることは、悲しいことでもあります。しかし、その方がキリストの復活を信じておられましたので、その方は世の終わりに復活するという恵みをいただきます。「死は滅びではありません。キリストを信じる者にとって、死は滅びではなく、新たないのちへの門であり、地上の生活を終わった後も、天に永遠の住みかが備えられています。」とカトリック教会は教えております。天にある永遠の住みか、それは神の国です。この神の国に入るときは、復活したキリストが現れる、世の終わりがやってきた時です。その時、イエス様が教えて下さった「永遠のいのち」を、生涯を終えて後、罪を清められた方々はお受けになります。「私の父の御心は、子を見て信じる者がみな、永遠のいのちを得ることであり、私がその人を終わりの日に復活させることだからである。(ヨハネ福音書6章48節)」

生前、親しかった教会の信者さん、神父様、よくお見舞いに行った、やさしかったお年寄りなどのことを思い出して、永遠の安息を願って、お祈りを捧げましょう。

日	曜	典 礼	ミ サ	備 考
1	金	諸聖人(祭日)	初金ミサ(10時)	掃除
2	土	死者の日	主日ミサ(18時)	
3	日	年間第31主日	主日ミサ(9時)	死者のミサ
9	土		主日ミサ(18時)	掃除
10	日	年間第32主日	主日ミサ(9時)	七五三祝福
16	土			掃除
17	日	年間第33主日	主日ミサ(9時)	
21	木	聖マリアの奉獻(記念日)	祝日ミサ(10時)	
23	土			掃除
24	日	王であるキリスト(祭日)	子どもと共に捧げるミサ(9時)	聖堂清掃
30	土	年間第30主日		掃除

典礼こよみ(十一月)

横浜教区第46回一粒会大会に参加して

今年の一粒子大会は「わたしたちは神の民」というテーマで9月23日(月)箱根の函嶺白百合学園で開催され、当教会からも小林神父様をはじめ10人の参加となりました。本大会では800人の参加を目指していたそうですが、およそ1000人にも上る参加があったとのこと。当日は祝日にもかかわらず函嶺白百合学園の先生方や多数の生徒さんたちによって準備され温かく迎えられました。

開会式の後「十字を切る」など数々の著作等で有名な晴佐久神父様の講話が二部に渡りありました。シンプルで分かり易い言葉で「私たちは神様に愛されている、救われている」というメッセージが直球で私たちの心に投げかけられました。ご自身の少年時代のユーモアを交えたエピソードは子供の頃の家庭環境や体験が、いかにその後の人生を左右し重要であるかを物語っているようでした。神父様の軽妙な語り口に会場は一瞬のうちに引き込まれ、和やかな笑い声と爽やかな箱根の初秋の風に包まれながらあっと言う間に前半のお話が終わりました。

後半のお話では私たちが親として子供に向かうべき姿勢を、ご自身が子供時代に受けたご両親の姿勢に重ね合わせ語りかけられました。「親は子供に色々なことを経験させ、与え尽くしなさい。ゆくゆくは親孝行してほしいなどと微塵も思わず、脛をかじられ骨までかじられ、体がぼろぼろになるまで愛し尽くしなさい」と今更ながら己の身につまされる様なお話でした。また「神に選ばれた神の民として、綿々とした流れの中で神の愛と永遠の命を受け継ぐ者として、その流れを絶やさず、邪魔しないで、次の世代に繋いで行ってください」と何度も強調しておっしゃいました。「私たちがではなく神が私たちを使って、神が働いてくださっているのだから、ただ、神のみ業を信頼して生きていきましょう」と力強くお話しを締めくくられました。

昼食後の大会ミサの中で今年叙階された末吉町教会の田邊神父様のお説教をお聴きして、私たち神の民は希望に向かって確実に歩んでいるのだと感じられた一日でした。

(今井 暁子)



～ 中和田の風 ～

いつも傍らに主人が — 家族、共同体、友人に支えられて —

次男の尚輝さんと楽しそうに自転車に乗って教会に通ってこられる石崎博美さんにお話を伺いました。

▲ご主人様をがんで亡くされてから4年経ちますがどのように悲しみを乗り越えてこられましたか？

一最初の一年は本当に辛かったです。長男、雄太の支え、主人の両親や兄弟の支えがあり、中和田教会の要理のお母さん方や、その他共同体の多くの方々から心をかけて頂いたこと大変心強く思っていました。特に要理のお母さんたちとは教会のこと、子供のことなど気軽に相談し合える関係が築かれており、子供たちを通して要理の担当をさせて頂いていることは大きなお恵みだと感謝しています。当時次男、尚輝は小2で幼かったのが悲しんでばかりいられないと思えたし、仕事を持っていたこと、何でも話せる友人がいたおかげなどで前向きに生きてこられたのだと思います。

▲立ち直るときに信仰は助けになりましたか？

一主人と結婚したときに要理の勉強をして洗礼、その後幼児洗礼をしていた主人と共に堅信を受けたことで主人との絆を強めることができました。目には見えないけれど一緒に堅信を受けた経験が今も心の助けになっているような気がします。子供たちとはお祈りすることを大切にしており、食事の前の祈りはもちろんですが、寝る前は主の祈り、マリア様のお祈りを欠かしたことがありません。無事一日を健康に過ごせたことの感謝はもちろんのこと、悩むときはしばらく主人の写真を見て話しかけたり、お祈りすることによって神様に守られているような安心感が得られます。今でも時々主人の声を聞きたいと思うこともありますが、主人がいつも側にいて応援してくれているような気がしているので、子供たちの成長を見守りながら自分の道をしっかり歩んでいきたいと思っています。

▲人生の中で最も大切なことはどんなことですか、上から三つぐらい教えてください。

またそれをどのように子供さんに伝えていきたいと思いませんか？

一家族、健康、信仰生活、友情。子供たちには支えてくれる家族や回りの人々、友情を大切にして、大人になって忙しくなり教会に来られないようになっても日々神様が見てくださることを忘れずに素直に謙虚に生きていきたいと願っています。

信徒の会 鎌倉ハイキング（10月19日）

一行12人は、10時半に北鎌倉駅前に集合、源氏山を経て、1時半に長谷の大仏に無事到着。最高齢86才（平均年齢は？）でしたが、全員元気いっぱい、初秋の山歩きを楽しみました。（岩淵 英介）



源氏山で頼朝と一緒に



気持ちの良い山道



楽しい昼食



無事 長谷の大仏に下山



月面観望会のご案内

月面を天体望遠鏡で観望する会を下記の通り実施致しますのでご参加ください。お待ちしております。

— 記 —

- ・日時 11月8日（金）18時30分～19時30分
- ・場所 中和田カトリック教会の裏の空き地（畑）
- ・講師 神奈川大学付属中・高等学校 久保先生

*夜ですので保護者ご同伴でお願いします。

*懐中電灯をご持参ください。また暖かくしてお出かけください。

いずみ青少年を考える会 森脇 美武



バザー開催！＜速報＞

台風一過の10月27日、晴天のお恵みのもとで中和田バザーが開催され、交流のひと時を盛況裏に終えることができました。

ご来場頂いた皆様、ご奉仕頂いた皆様、ありがとうございました。



教会の建物を考える会、営繕G

教会の掃除、庭の手入れ、修繕などに教会が自分たちの家であると言う気持ちで美化、維持にご協力を戴き感謝いたします。聖堂は1974年に献堂してから39年、新集会室は1985年に竣工してから28年が経ちました。営繕関係では補修が必要な部分や、各種の機器も故障や代替の時期が来ているものが増えてきており、発生の都度話し合いを行い対応しています。補修や小改善など自分たちで出来ることは極力やってきましたが、高齢化が進み出来ないことも多くなってきています。大掃除は年1回業者に依頼しておりますが、マリア様の前の花畑の手入れは続けることが困難な状況となっております。

建物を考える会では、大規模な修繕改造、新設などを検討し実施しております。数年後には屋根の改修、聖堂のエアコン代替が必要になると思います。最近話題になっている地震に対しては調査の結果耐震性があり倒壊する心配はありません。しかし火災などの発生状況によっては避難路の必要性も話題になっております。

このグループは毎月第4日曜日に話し合いを行い、さらに委員会に諮って実行しております。興味のある方、意見提案のある方はどなたでも参加をお待ちしております。これからも我が家である教会の維持のため、積極的に協力をお願いいたします。

【募集中】・お花が好きな方 お花を育てていただけませんか、ぜひご協力をお願いいたします。

(福島清)

委員会だより (文中敬称略)

△10月13日(日) 12名出席▽

■神父様の話

・2014年中和田教会堅信式対象者：可能性があるのは23名(小3名、中4名、高3名、社会人13名)課題

① 堅信対象者が教会の仲間になり一緒に交わることができ堅信を受けやすい環境作りが必要

② これから堅信式を受ける人のために教会共同体で祈ることが大切

③ 親、代父母、堅信を受けた先輩などが協力者グループを作りサポートしていく

↓来年度実施日は宣教井上さんと神父様で検討し司教様訪問希望の申込みをして頂く

サポート体制については今後検討していく

・難民移住移動者委員会事務局を末吉教会内に設置するための建設資金援助のお願いがある。(担当：貝塚教会、本柳孝司神父) ↓愛の献金と一般会計から寄付する。(財務)募金箱も設けてほしい(その他)

↓来月までの検討課題

・11月17日 第五地区共同宣教司牧委員会にて小教区の災害対策を発表する

■報告事項

・ホワイトボードスケジュール確認

・七五三のお祝い(例年通り)

■各グループからの報告

●財務(甲斐)

・各グループは2014年度の予算案を11月末までに提出してください。

・ダスキンから他の業者に変更することを検討中。

とを検討中。

●典礼(大宮(智))

・子供と共に捧げるミサ：今後子供ミサをしない月を9月、12月とする

・9月29日典礼ミーティング 24名参加

・信仰年の聖歌の練習、ミサの中で歌うことは11月23日までに実施とする。

・聖歌の練習が好評であったので恒例化する。

・共同祈願を普段から自分の言葉で祈る習慣をつけると良い

・待降節 ゆるしの秘跡

12月7日(土) 10時 委員会

12月8日(日) 指導司祭は特段の希望がない限り小林神父を予定。

ミサ後に講話+ゆるしの秘跡

12月15日(日) (予備日)

●宣教(石井(洋))

・第五地区関連：リーダー会11月4日(月)

・中高生会：11月中を調整中

●行事(小野(和)、磯田)

・敬老の日：招待状50名、17名参加

・参加されなかった方に後日おまんじゅうを届けたが、寝たきりの方、車イスの方、お目にかかれない方が多かった。

・例年、日ガスより借用していたガスボンベが使用できなくなったため

・ガスコックを追加する工事を行った。集会室(2口)と聖堂床下(4口) ↓カレー、おでんは集会室にて、

・春巻きは新集会室にて販売する。

・古着の残は武田さんが引き取ってください。

●建物/営繕(福島)

・9月10日消防設備点検

・9月30日ガスコック追加工事、

・神父様台所 ガスコンロ取り替え

・10月20日(日) 庭そうじ、植木剪定

●福祉(楠田)

・去年のバザー収益からの分配分 11万285円(使い道は今後検討する)

●広報(今井) 原稿のお願い

●信徒の会(岩淵)

・望遠鏡で空を見る11月8日(金) 六時半(雨天中止)

・今後の予定：カトリックに関係のある映画を見て分かち合う

・黙想の家で黙想する

・他の教会を訪問する

*現状は参加者が限られているが、年齢やグループを超えたお付き合いができるとうい。

・お子さんにも出ていただけるとよい

●その他

・女子パウロ会の書籍販売を11月第一日曜日に実施

・広町自治会50周年のお祝いは委員長が出席する。

次回委員会 11月10日(日)

以上

教会からのお知らせ

●訃報

ユリアナ 岩淵武さん

9月30日に帰天されました

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

●お願い

・住所変更、地番変更のあった方は

・総務に届け出をしてください

・横浜天主献堂 日本再宣教150周年記念誌が集会室の書架にありますのでご覧ください

(総務グループ)

